

横浜市の外郭団体として初めての最上位認証
横浜市 SDGs 認証制度“Y-SDGs” 最上位認証
「Supreme (スプリーム)」を取得しました

公益財団法人横浜市緑の協会（横浜市中区 理事長 福山一男）は、令和 4 年 11 月 28 日付で横浜市が行う「横浜市 SDGs 認証制度“Y-SDGs”※1）において、最上位認証である「Supreme (スプリーム)」を取得しました。これは横浜市の外郭団体では初めての認証となります。

横浜市緑の協会は、横浜市内の緑化推進事業をはじめ、市内の指定管理公園や 3 つの動物園（よこはま動物園ズーラシア・野毛山動物園・金沢動物園）の管理運営を担っている公益財団法人です。

今回の最上位（スプリーム）の認証取得については、昨年取得した上位（スーペリア）認証からのランクアップとなり、公益事業への積極的かつ発展的な SDGs への取組を高く評価していただいた結果だと考えております。

横浜市SDGs認証制度



(横浜市SDGs認証制度 / 私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。)

当協会の活動は事業内容との関連から SDGs に密接しており、公益財団法人として SDGs の目標達成に向けた取組を推進していく責務があります。だからこそ、私たちはより積極的かつ発展的な取組を実践し SDGs 達成に努めています。

一例として、根岸森林公園（横浜市中区）では、令和 4 年 6 月に国際ヨガデーヨコハマ実行委員会とヨガイベントを共催しました。参加費の一部をヨガの発祥地であるインドのスジャータ村（ブダガヤ郊外）にある貧困層の子どものための学校への支援金にすることで、誰もが公平で質の高い教育を享受する取組に貢献しました。さらに別の取組として、電気自動車（EV）を導入し災害時でも電力不足による混乱をできる限り抑え、避難場所として地域住民の安全を確保する取組を行っています。

金沢動物園（横浜市金沢区）では、三本珈琲株式会社（横浜市金沢区）とのパートナーシップにより、コーヒー残渣を金沢動物園にて使用。動物獣舎においてコンクリートの寝床にコーヒー残渣とおが粉を敷くことで動物の体への負担や底冷えなどの生活環境を改善することができました。この取組では、廃棄物再利用と動物たちの QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上を実現しています。



根岸森林公園の電気自動車



ゾウ舎の床に敷き詰めたコーヒー残渣とおが粉動物や排泄物への消臭効果もあります

また横浜市内に「花と緑」を増やす緑化推進事業においては、活動の中心となる担い手の育成支援を実施。緑化に関する知識・技術を習得する研修を受講し認定される「よこはま緑の推進リーダー」制度を運用して認定者を増やし、その活躍を支援することで地域の緑化活動の持続的発展に取り組んでいます。

今後の新たな SDGs への取組としては、長浜公園（横浜市金沢区）で間伐した竹を金沢動物園のゾウのエサにし、ゾウの糞堆肥を長浜公園で利用する取組を進めていきます。

横浜市緑の協会では、引き続き積極的かつ発展的な SDGs の取組を展開していくことで、横浜市外郭団体としての公益事業を通じ、横浜市が目指す「SDGs 未来都市・横浜」の実現に貢献していきます。

※1：横浜市 SDGs 認証制度“Y-SDGs”は、SDGs 未来都市の実現及び SDGs 達成に向けて貢献する意思を持つ事業者（市内外の企業・各種団体・NPO 法人・市民活動団体等）を対象に、環境、社会、ガバナンス及び地域の4つの分野、30項目で評価を実施し、各評価項目における取組状況によって、3つの区分（最上位、上位、標準）で認証する制度。

公益財団法人横浜市緑の協会について

公益財団法人横浜市緑の協会は、1976年（昭和51年）7月、任意団体「横浜市公園協会」としてスタートし、1984年（昭和59年）に「よこはま緑の街づくり基金」の設置に伴い「財団法人横浜市緑の協会」となりました。その後、2012年（平成24年）4月に神奈川県からの公益認定を受け「公益財団法人横浜市緑の協会」に移行し、現在に至ります。市民の皆様からの寄付によって積み立てられる「よこはま緑の街づくり基金」の運用益等を活用して緑化推進事業を展開するほか、公共の福祉の増進に寄与することを目的として公園事業、動物園事業等を行っています。



お問合せ先

経営企画課 課長 堀内 貴雄 Tel 045-228-9416